令和７年度　第三回札幌市文化芸術創造活動支援事業等評価検証委員会　議事録

１　日　時
令和８年１月19日（月）　１０時００分から１２時００分まで

２　出席者
⑴　委員
・　本田　修　　（元国際交流基金文化事業部長）
・　右谷　誠　　（札幌市芸術文化財団市民交流プラザ事業部　センター事業部長）
・　山本　麻友美（京都芸術センター副館長）
・　吉本　光宏　（合同会社文化コモンズ研究所代表）
・　若林　朋子　（プロジェクト・コーディネーター、立教大学大学院教員）
⑵　事務局
・　米森　正貴　（市民文化局文化部長）
・　犬飼　やよい（市民文化局文化部事業調整担当課長）
・　大沼　孝彰　（市民文化局文化部文化振興課調整担当係長）
・　小川　桜　　（市民文化局文化部文化振興課振興係）

３　議　題
⑴　令和７年度事業報告書の項目について
⑵　令和８年度事業について
⑶　札幌市の文化政策の全体構造について
⑷　令和８年度以降の事業の進め方について

４　議　事
◎　開会
事務局（犬飼事業調整担当課長）の司会進行により、委員全員の出席を確認した。
⑴　令和７年度事業報告書の項目について
事務局より、事業報告書の更新案（変更点）について説明した。
【説明概要】
- 各事業者が実施した公募についての情報（公募期間、応募数、採択基準など）を記載する欄を追加する。

【主な意見】
- アーティストの意識の変化の数の項目は、この事業により生まれた変化が把握できて良いと思う。
- 具体的な変化の内容も分かるのが良い。「アーティストの意識変化とその数」という記載の方が分かりやすいのでは。

⑵　令和８年度事業について
事務局より、令和８年度事業の公募要領および実施内容の更新案（変更点）について説明した。
【説明概要】
- 公募区分等、基本的な事柄は令和７年度同様の運用といたしたい。
- 一部、令和７年度の採択者アンケートをもとにプロジェクト申請書を更新したい（予定している公募についての記載欄追加）。
- 採択者アンケートでは、事業期間が短いという意見が見られた。可能な限り

その意見に応えるため、令和８年度はスケジュールを若干前倒しし、２週間程度事業期間を伸ばす予定。
- 運用面では、オブザーバーと採択事業者とのコミュニケーションをより活発に行える方法を検討したい。
- 今年度は、全体説明会の代わりに説明動画を作成し、HPで公開する予定。

【主な意見】
- 採択者アンケートをもとに公募要領を更新していく姿勢は良いと思う。その姿勢をきちんと見せていくことで、札幌市への信頼が高まる。
- 様々な意見はプールしておいて、今後の課題として活用していくことが重要。

⑶　札幌市の文化政策の全体構造について

事務局より、札幌市が策定する計画（アクションプラン、札幌市文化芸術基本計画等）について説明した。

【説明概要】
- 文化部では計画等に基づき文化施策を展開しているが、今の札幌市に不足している要素など、まだ見えていないところもある。
- 札幌市の文化政策における課題をワーキンググループやヒアリング等で見出し、札幌市のアーツカウンシルに必要な機能やあり方を検討していきたい。

⑷　令和８年度以降の事業の進め方について

（議題⑶に続けて）事務局より、来年度事業の実施予定について説明した。

【説明概要】
- 令和９年度以降の事業検討(機能)に活用するため、令和８年度にワーキンググループの実施を予定している。
- ワーキンググループは、検証委員会とは別建てで、札幌市内の文化芸術関係者をメンバーとして組織し、年度後半から複数回開催するイメージ。
- アーツカウンシルの立ち上げ前から地元の関係者に入っていただくことによって、当事者意識を醸成したい。

【主な意見】
- 採択団体のヒアリングにより出てくる課題は、重要性は高いが個別具体的なものが多い傾向になると思う。これらを、ビジョンなどにどう結びつけて戦略化するかが大切。
- 札幌市の文化芸術に関する支援内容について枠組全体で示せればと思う。
- ワーキンググループのメンバーを選ぶのは難しいが、ある程度流動性・任期があれば、「みんなで参加している」意識が高まるのではないか。
- ワーキンググループのメンバーについて、多角的に物事を考えられる人がいると良い。
- 来年度は実証実験の最終年度であるため、提言が必要になるだろうから、初回から議論を進めるべき。
- アーツカウンシルを上手くスタートさせるためには、札幌市の次期アクションプランの掲載内容が重要。

【閉会】